

領域：	パブリック、ビジネス		
テーマ：	『体験』行動経済学		
担当者名：	木成 勇介		
開講時期：	後期：金曜 4・5・6限	募集定員：	25名
内容：	この授業では、行動経済学の基礎を講義・演習・発表を通して学ぶ。行動経済学とは、これまでの伝統的な経済学では主要な研究対象ではなかった人間の心理的な側面や合理的とは思えない側面が経済活動に与える影響を調べる分野である。講義で行動経済学の基礎を学ぶと同時に、実験やアンケート調査を企画・実施し、分析結果をまとめて報告することが求められる。		
到達目標：	実験やアンケート調査を企画・実施することができるようになる。データを入手・分析し、論理的に報告できるようになる。		
講義方法：	毎回の授業は、担当講師による講義、少人数グループでの演習、受講生による発表、及び担当講師による補足説明で構成される。まず、担当講師が行動経済学の基本的な教科書を用いて、行動経済学の基礎を講義形式で解説する。講義後、あらかじめ少人数のグループに分けられた受講生による報告、もしくは各グループで設定した研究テーマに従って研究を進める。場合によってはアンケート調査や経済実験を実施することになるが、原則、講義外に実施することとする。最後に、担当講師が報告内容を補足・解説する。		
準備学習：	特になし。		
成績評価：	出席(30%)、グループ発表(30%)、最終報告会での報告(20%)、最終報告の内容をまとめたポスターの提出(20%)で評価する。		
欠席基準：	授業実施回数の3分の1(端数は切り捨て)以上を欠席した場合は、単位を修得することができない。		
講義構成：	<p><第1回～第6回></p> <p>行動経済学の基本的な教科書を用いた講義を行う。講義後、あらかじめ少人数のグループに分けられた受講生によるグループ報告を行う。報告テーマはあらかじめ定められた書籍から選択する。その後、担当講師が報告内容を補足・解説する。</p> <p><第7回></p> <p>これまでの講義内容及び各グループでの報告内容をふまえ、グループ毎にリサーチプロポーザルを行う。各グループが提案したテーマに担当講師が微修正を加えた後、各自が研究テーマを決定する。</p> <p><第8回～第14回></p> <p>行動経済学の基本的な教科書を用いた講義を行う。講義後、各グループで定めた研究テーマに基づき、研究を進める。適宜、担当講師が指導・助言する。講義の最後には、グループ単位で研究の進捗状況を報告する。課外活動として、研究者が実施している経済実験に参加、あるいは見学することもある。</p> <p><第15回></p> <p>各グループで定めた研究テーマに関する最終報告会を実施する。</p>		
履修条件：	このプロジェクトに関する説明会を5月もしくは6月に実施する。日時は追って掲示する。受講希望者は説明会に出席すること。また、「経済学入門」をはじめとした経済学関連科目を修得していることが望ましい。		
推奨科目：	特になし。		
選考方法：	人数が多い場合は選考を実施する。		
備考：	年末に実施される甲南大学リサーチフェスタでのポスター発表を課す可能性がある。また、最終報告会には他の教員が受け持つプロジェクトと合同で実施する可能性がある。		
説明会：	このプロジェクトに関する説明会を5月もしくは6月に実施する。日時は追って掲示する。受講希望者は説明会に出席すること。		